Ⅱ　貸借対照表関係

1．翌期の運営費交付金から充当されるべき賞与の見積額　252,020千円

2．翌期以降の運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額　2,986,714千円

Ⅲ　キャッシュ・フロー計算書関係

1．資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	1,907,346千円
定期預金	△　1,000千円
資金期末残高	1,906,346千円

2．重要な非資金取引

⑴　現物寄附による資産の取得

工具器具備品	17,434千円
図書	18,201千円
計	35,635千円

⑵　ファイナンス・リースによる資産の取得

工具器具備品	32,931千円

Ⅳ　国立大学法人等業務実施コスト計算書関係

引当外退職給付増加見積額のうち、国又は地方公共団体からの出向職員に係る額　△1,886千円

Ⅴ　金融商品関係

1．金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しています。

資金運用にあたっては国立大学法人法第35条が準用する独立行政法人通則法第47条の規定に基づき、公債のみを保有しており株式等は保有していません。

2．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額（＊1）	時価（＊1）	差額（＊1）
⑴　投資有価証券及び有価証券			
満期保有目的債券	159,994	160,481	486
⑵　現金及び預金	1,907,346	1,907,346	—
⑶　未払金	(1,238,466)	(1,238,466)	—

（＊1）　負債に計上されているものについては、（　）で示しています。

㈱　金融商品の時価の算定方法

⑴　投資有価証券及び有価証券

取引金融機関から提示された価格によっています。

⑵　現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

⑶　未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

Ⅵ　賃貸等不動産関係

1．賃貸等不動産の時価等に関する事項

当法人は半田地区、北小路地区及び法蓮地区に寄宿舎等を有しています。これらの賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は次のとおりです。　（単位：千円）

貸借対照表計上額			当期末の時価
前期末残高	当期増減額	当期末残高	
1,788,900	△　36,769	1,752,130	1,826,669

（注１）貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額です。

（注２）当期増減額のうち、主な増減額は次のとおりです。

減価償却による減少（学生寄宿舎ほか２箇所）　37,746千円

設備取得による増加（学生寄宿舎）　976千円

（注３）当期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて当法人で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）です。

2．賃貸等不動産に関する収益及び費用等の状況

賃貸等不動産に関する当事業年度における収益及び費用等の状況は次のとおりです。

（単位：千円）

賃貸収益	賃貸費用	その他（売却損益等）
21,440	47,713 (37,375)	—

㈱　賃貸費用の括弧内には、損益外減価償却相当額を内数として記載しています。

Ⅶ　資産除去債務関係

該当事項はありません。

Ⅷ　重要な債務負担行為

該当事項はありません。

Ⅸ　重要な後発事象

該当事項はありません。

附　属　明　細　書

⑴　固定資産の取得及び処分、減価償却費（「第84　特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第89　資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）並びに減損損失の明細

（単位：千円）

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産（特定償却資産）	建物	12,627,341	365,815	—	12,993,157	5,472,152	487,022	—	—	—	7,521,005	
	構築物	1,127,395	64,036	—	1,191,431	679,828	50,882	—	—	—	511,603	